

コミュニケーションの研究を通し、最終的に社会貢献するのが目標。

太田先生は大学生の時に異文化間コミュニケーションに興味を持ち、高校の英語教師を経てアメリカに5年間留学。コミュニケーション学の博士号を取得しました。アメリカではコミュニケーション学は社会で生かされ、政府から成果が期待されるほど学問としてパワーがあるのに対し、日本ではまだ新しい分野で研究者の活躍の場は限られているとのこと。今後は、メディアと人間コミュニケーションの研究を軸に、関心のある幸福感とコミュニケーション、健康とコミュニケーションなどを究めていき、「最終的には社会貢献したい」とのことです。



現代社会学部教授 太田浩司

【学歴】

1985年3月 南山大学外国語学部英米科卒業
1993年12月 カリフォルニア州立大学フラトン校
スピーチコミュニケーション研究科修士課程修了
2001年12月 カリフォルニア大学サンタバーバラ校
コミュニケーション研究科博士課程修了

【職歴】

1996年9月 名古屋大学留学生センター短期留学部門助教授
2000年4月 愛知淑徳大学現代社会学部助教授
2006年4月 愛知淑徳大学現代社会学部教授

【太田先生の主要論文リスト】

- Ota, H., Giles, H., Somera, L. (2007). Beliefs about intra- and intergenerational communication in Japan, the Philippines, and the United States: Implications for older adults' subjective well-being. *Communication Studies*, 58, 173-188.
- McCann, R. M., Dailey, R., Giles, H., & Ota, H. (2005). Beliefs about intergenerational communication across the lifespan: Middle age and the roles of age stereotyping and respect norms. *Communication Studies*, 56, 293-311.
- Ota, H. (2004). Culture and intergenerational communication: Implications of cultures for communication across age groups. Ng, S.H., & Candlin, C.N., & Chiu, C.Y. (Eds.). *Language and Social Psychology* (pp.183-201) Hong Kong: City University of Hong Kong Press.
- Pecchioni, L.L., Ota, H., & Sparks, L. (2004). Cultural issues in communication and aging. In J. Nussbaum & J. Coupland (Eds.), *Handbook of communication and aging research* (pp.167-207). Hillsdale, NJ: Erlbaum.



私の研究の対象は人間コミュニケーションです。人々がコミュニケーション活動を通して何を、何を感じているかを調査し、どうしたらより効果的なコミュニケーションができ、幸せな生活を送ることができるかを提案することが一つの目標です。社会レベルで存在する様々な問題をコミュニケーションの視点からアプローチしてその解決策を見出すということも、我々研究者の二つの責任だと思っています。

私の研究は所属をしているメディアプロデュースコースらしからぬものだと思います。私の研究は所屬をしているメディアプロデュースコースとしても映像、画像、コンピュータや携帯電話などのメディアが常に最終到達地である必要はないと思っています。それらのメディアに行き着くまでのプロセスやメディアが人々の生活にもたらす影響なども、メディアプロデュースの研究に含んでも良いと思っています。メディアを広義で捉えた場合、言語や言語使用も立派なメディア研究の対象となりえるでしょう。

今まで様々な研究を行ってきました。異文化適応とネットワークやコミュニケーション能力の研究に始まり、最近では世代間におけるコミュニケーション、第2言語習得、さらに警官と市民とのコミュニケーションなどの研究を行っています。

世代間コミュニケーションの研究はかなり長期的に継続しているとはいえず、まぐるしく変化をする社会の中で調査することはまだまだたくさんあります。テレビ番組、映画、コマーシャルフィルムなどに現れている各年齢層の人々のイメージ、メディア使用と年齢グループ、また人々の年齢に対する意識、般など、世代間コミュニケーションの実態をつかむには多くの研究が必要です。現在は日本の若い人が同世代、異世代の人々をどのように考えるか、その人たちがどのようにコミュニケーションをしているのかについて研究をしています。

第2言語習得の研究は英語学習のモチベーションに焦点をあて、カナダの心理学者との共同研究で研究をしています。教員とのコミュニケーションや言語がその国でどのような地位にあるのか、またメディアではどのように扱われているかなどの認識が、どうモチベーションと関連しながら英語習得につながっていくかを調べています。

警察と市民の間でのコミュニケーションについての研究は、信頼(Trust)を媒介変数として、警官のコミュニケーションと市民の警官への協力の関係を調べています。こちらも国際研究ですが、まだまだこれからです。文化的な土壌が異なるため違うモデルを使用し考える必要があるかと思っています。